

剣道時代

2008年10月号

2008年6月、
楊先生の恩師である香田郡秀教士八段に
竹園武術館に指導に来て頂いた時の様子が
紹介されました。



香田教士が中国・蘇州竹園剣道倶楽部を指導



「力を抜いて」「基本通りまっすぐに打て。当てようとして姿勢を崩すな」。世界選手権個人優勝の香田郡秀教士八段（筑波大学准教授）の大きな声が道場に響いた。指導を受けているのは9歳から61歳まで、日本・中国・台湾の老若男女およそ40人。香田教士の教え子で蘇州竹園剣道倶楽部会長の楊敢峰三段が香田教士の指導内容を中国語に翻訳して伝えた。北京からわざわざ1000キロ余りを飛んできた中国人剣士の姿もあった——6月下旬、中国江蘇省蘇州市にある小さな剣道場で行なわれた稽古風景だ。

香田教士の竹園剣道倶楽部での指導は2年

ぶり2回目。今回は6月20日から28日まで蘇州、杭州、上海に滞在し、この間、竹園剣道倶楽部で3日間にわたって指導された。内容は正しい稽古の仕方だけでなく日本剣道形、指導法、審判法などにおよび、まったくの初心者まで参加者すべてを相手に稽古をつけられた。続いて遅い夕食をとりながら、つたない経験者相手に剣道談義にも応じられた。日本では直接の教え子でもなければできない「トップクラス剣道家の独り占め」だった。

（通信＝蘇州竹園剣道倶楽部副会長 上野慎一郎氏）